

鳥取県の地震

2023年（令和5年）10月

鳥取地方気象台

目 次

(1) 鳥取県とその周辺の地震活動	
震央分布図及び断面図、概況	1
(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震	1
(3) 地震・津波の知識	
中国地方の活断層	2

- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

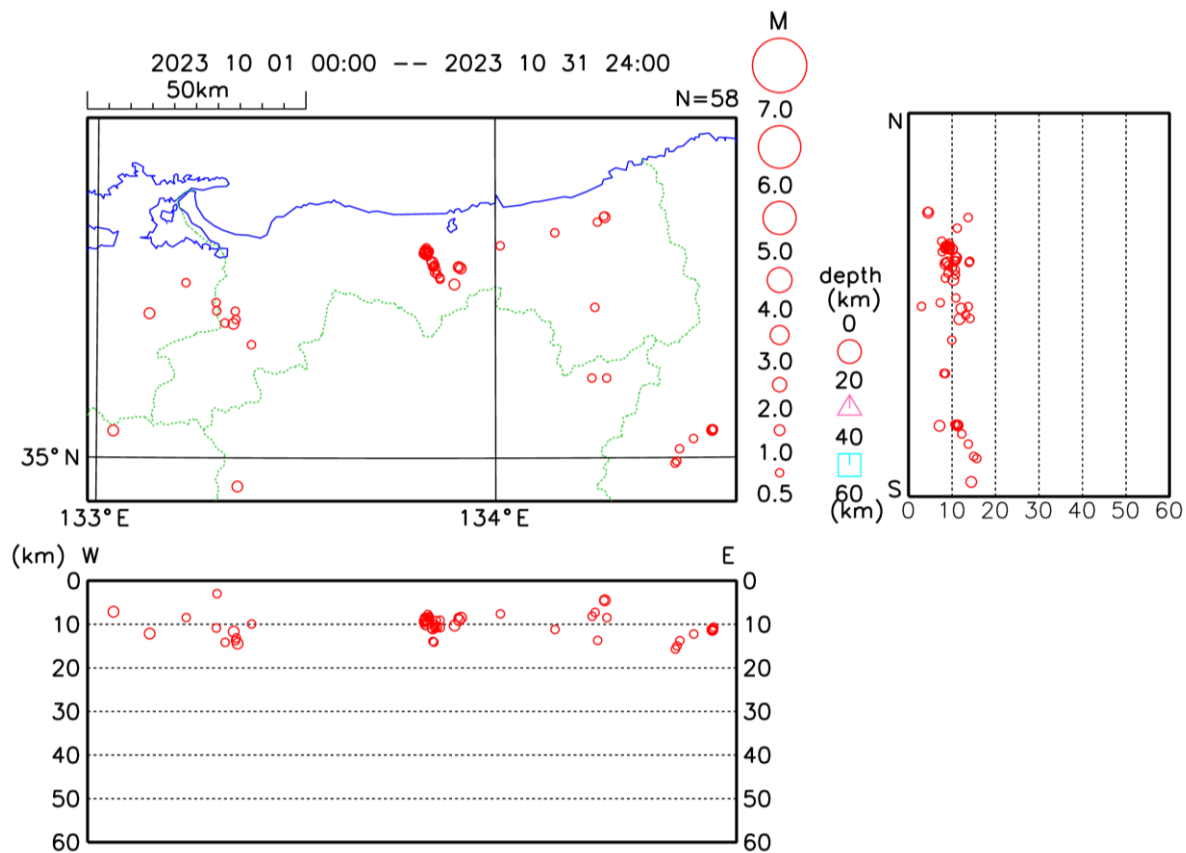
- 本資料の地震の震源要素、震度データ及び発震機構解等は再調査された後、修正されることがある。

* 広域の地震については、大阪管区気象台作成の「大阪管内地震活動図」をご覧ください。

大阪管内地震活動図URL <https://www.jma-net.go.jp/osaka/jishinkazan/kanindex.html>

(1) 鳥取県とその周辺の地震活動

[震央分布図・断面図]



[概 況]

2023年10月に鳥取県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震はありませんでした(前月も0回)。
上記震央分布図内において、M2.0以上の地震は0回(前月は2回)でした。

(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震

2023年10月に鳥取県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震はありませんでした。

(3) 地震・津波の知識

中国地方の活断層

先日、国土地理院から「令和5年度 1:25,000 活断層図」が公開されました。

活断層図は、政府の地震調査研究推進施策の一環として、内陸地震の長期評価に必要不可欠な活断層の詳細な位置情報を「電子地形図 25000」上に表したものです。公開された全国8つの地域のうち、中国地方では島根県の浜田南部と益田南部の2つの地域が含まれています。



公開された地域

やさか (弥栄断層)

島根県鹿足（かのあし）郡津和野町から益田市、浜田市金城町にかけて分布する活断層です。弥栄断層の長さは約 53 km で、概ね北東-南西方向に延びています。今回の調査で浜田市南部エリアの複数の区間が活断層と認定されました。

とむらがわ (戸村川断層)

益田市匹見町の北東-南西方向に延びる長さ約 6 km の活断層で、今回の調査で新たな活断層として確認されました。

活断層について

活断層とは、最近の地質時代に繰り返し活動し、将来も活動することが推定される断層のことで、我が国の陸域には約 2,000 の活断層があるとされています。平成7年の阪神・淡路大震災を契機に設立された地震調査研究推進本部では、活動度や活動した際の社会への影響度等を考慮し、マグニチュード7以上の地震を引起す可能性のある114か所を主要活断層帯に選定し、評価を行っています。一方、主要活断層以外にも被害が生じる地震が発生していることから、個々の活断層ではなく地域全体を総合的に評価することを目的として、平成28年に中国地方の地域評価を公開（令和2年に修正）しています。また、中国地方に隣接する日本海西南部についても海域活断層として令和4年に評価を公開しています。

評価の信頼度が低い断層帯や、海への延長部分、地表に現れている長さが短い活断層についても引続き調査が行われ、今回のような調査結果が順次公開されています。

◇今回公開された活断層図の詳細は国土地理院のウェブサイトからご確認ください

・国土地理院>2023 報道発表資料>（資料の訂正）活断層の正確な位置を知ろう

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/afm_kouhyou_2023.html

そのほかの地震活動の詳細については、気象庁ホームページまたは『令和5年10月地震・火山月報（防災編）』をご覧ください。

U R L <https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/>

問い合わせ先：鳥取地方気象台

TEL：0857－29－1313